

二本松市は、西部に安達太良山、東部に阿武隈山地が連なり、市の中央を阿武隈川が流れる豊かな自然に加え、大河沿いの地の利を活かし、古くから文化が栄えてきました。一方、豊かな自然は時として災害をもたらすこともあります。

近年、全国各地で発生している地震災害や豪雨災害、火山災害などは、本市でも発生する可能性があります。しかし、正しい情報と的確な行動を取ることで被害を最小限にとどめることが可能になります。

この総合ハザードマップを使って、ご家庭や地域で災害時に取るべき行動を考え、災害に強い地域づくりにお役立て下さい。

災害に備えて

いざというときにあわてず適切な行動をとるため、地震や風水害などの災害が起こる前からの準備が重要となります。日頃から災害への備えや災害時の行動について、家族や地域で話し合っておきましょう。

家族で話し合おう

ステップ ① 自宅の位置や避難場所を確認しましょう。

国道や県道の位置、学校や公共施設などの位置を参考に、自宅の位置や避難場所を確認しましょう。



ステップ ④ 実際に避難経路を歩いてみて、安全が確認しましょう。

家庭や地域で話し合いながら、考えられる避難経路を歩いてみましょう。避難経路に危険な箇所がある場合には、避難経路を見直しましょう。



ステップ ② 地震や大雨のときに危険になる場所を確認しましょう。

古い家屋やブロック塀など地震のときに危険となる場所、自宅周辺にある水路・橋や土砂災害警戒区域など大雨のときに危険となる場所を確認しましょう。



ステップ ⑤ 非常持ち出し品を準備しましょう。

裏表紙の「持ち出し品のチェック」を参考にして、避難するときに持ち出すものを準備しましょう。



ステップ ③ 危険箇所を避けて、避難経路を設定しましょう。

②で確認した地震や大雨のときに危険となる場所を避けて、避難経路を設定しましょう。



ステップ ⑥ わが家の防災メモを記入しましょう。

普段から指定緊急避難場所・指定避難所を確認して、裏表紙にある「災害・避難カード」に記入しましょう。安否確認のために家族や知人、親戚等の連絡先を記入しておきましょう。



地域で話し合おう

大切なのは地域のつながり

大規模な災害時には、行政の対応能力を超える被害が予想されます。そのため、近隣の住民による助け合いが不可欠となります。平成7年の阪神・淡路大震災では、実際に救助された人のほとんどが、家族や近隣の方により救出されたといわれています。

いざというときに助け合うためには、日ごろからの声のかけ合い、地域の行事への参加などによる近隣の人々との関係づくりが大切です。



ステップ ① 自治会・町内会等で一時避難場所を話し合しましょう。

災害が起こったときに、まず安全を確保するために避難する一時避難場所を、自治会や町内会等で話し合しましょう。



ステップ ② 災害時の対応を話し合しましょう。

「自宅周辺の危険箇所」、「避難先」、「避難経路」について、家族やご近所の方と話し合しましょう。家族やご近所でこれらの情報を共有し、いざというときに協力し合うことが重要です。



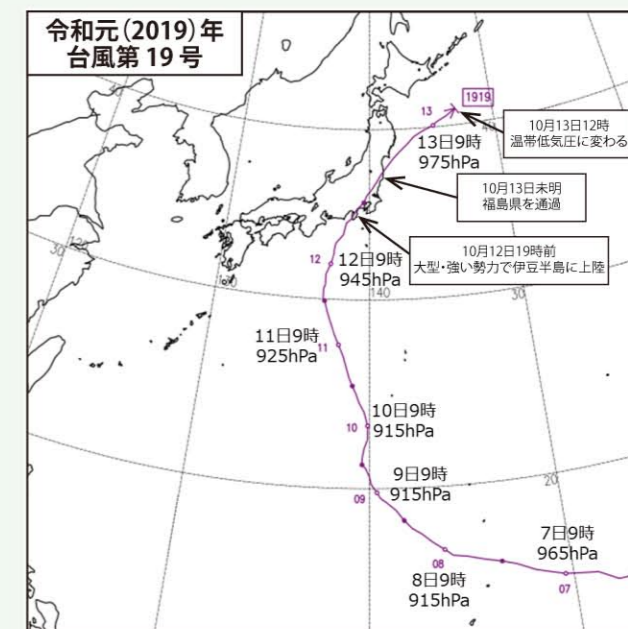
二本松市で発生した過去の災害 【令和元(2019)年 台風第19号】

【令和元(2019)年 台風第19号のあらまし】

令和元(2019)年10月6日3時に南鳥島近海で発生した台風第19号は、12日19時前に大型で強い勢力で伊豆半島に上陸しました。その後、勢力を維持したまま関東地方を北東へ進み、13日未明には福島県を通過して明け方には宮城県沖に抜けました。

福島県では、前線の影響で10月11日から雨が降り出し、台風の接近・通過に伴い、12日夕方から13日未明にかけては非常に激しい雨となりました。降り始めからの総雨量は、福島県の広い範囲で200mm以上の大雨となり、所によっては、10月1か月の平年値の2~3倍の雨が降った地域もありました。市内でも12日の降り始めからの総雨量が、二本松地域で191.5mm、安達地域で170mm、岩代地域・東和地域では246mmを記録しました。

この台風による大雨や暴風によって、洪水や土砂災害による甚大な被害が発生しました。



災害をもたらした気象事例(令和元年10月15日気象庁)の「台風第19号による大雨、防風等」の資料を編集

【台風による被害】

台風第19号の影響により、土砂崩れや阿武隈川、口太川、移川、安達太田川等の流域において多くの浸水被害が発生しました。また、橋の流出などにより、孤立した地域が発生しました。

台風第19号による市内の被害の状況

人的被害	死者	2人
	負傷者	—
住宅被害	全壊	7棟
	半壊	62棟
	一部損壊	218棟
住宅被害のうち	床上浸水	約50棟
	床下浸水	約130棟
その他被害	孤立	2世帯

台風第19号による降雨の状況



備蓄

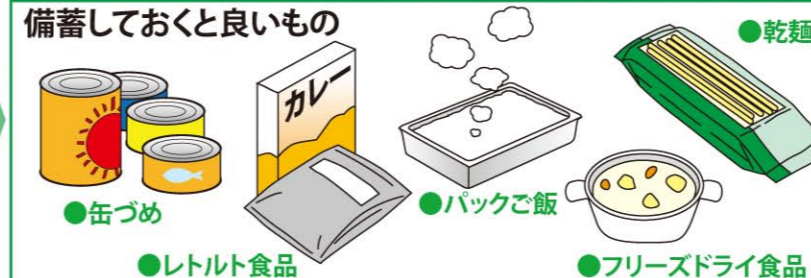
災害時に必要になるものは、家庭の状況によって様々です。家族構成や状況に応じて必要なものを備蓄品に加えましょう。また、冷蔵庫の中の物も立派な備蓄品です。1~3日目までは冷蔵庫の中のものを使い、4~7日目はローリングストック法で備蓄したものを活用するなど、工夫しましょう。

1~3日目 冷蔵庫や冷凍庫の食材を活用する



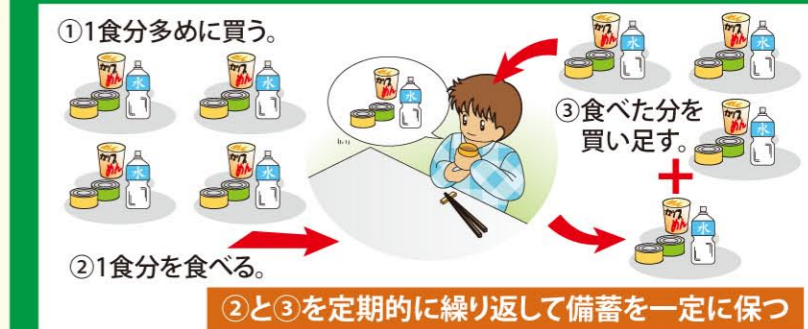
ご飯や食パン、野菜などを冷凍しておけば自然解凍により食べる事も可能です。停電のときは、クーラーボックスや保冷剤等を利用して食材を保護しましょう。

4~7日目 ローリングストック法で備蓄した非常食を活用する



● 食べながら備えるローリングストック法とは

ローリングストック法は、保存食を日常的に消費し、食べた分だけ買い足していく備蓄方法です。日頃から食べ慣れている賞味期限が1年程度のものを意識的にストックして、月に1、2度食べるときに防災について考えるきっかけにしましょう。



②と③を定期的に繰り返して備蓄を一定に保つ